

2020 年度 事業報告書

NPO 法人ゆいツール開発^ラ工^ボ房

目 次

1.	団体の設立趣旨	1
2.	団体の目的と主な事業	2
3.	団体の役員	2
4.	会計報告	2
5.	活動報告	4

1. 団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ、便利な社会に暮らしています。

しかしその裏で、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独感が蔓延し、地域コミュニティが崩壊するなど、社会の問題も深刻化しています。

世界では、これまで貧しいと言われていた国々が急激に発展し、豊かさを享受する人が増える一方で、開発による環境破壊、貧困格差、エネルギー・資源をめぐる問題など、多くの深刻な事態も表面化しています。

そんな中起きた東日本大震災と原発事故は、私たちにコミュニティの大切さとその危機を痛感させました。

今、こうした数多の問題を抱える社会を生きていくためには、多様な情報や選択肢から、自ら考え、選び、行動する力を一人一人が身につけることが肝要です。しかし過剰な情報や便利すぎる社会はその力を奪い、生きる力を弱めています。

ゆいツール開発工房^{ラボ}の主メンバーは、環境省の体験的な学びの場づくりに6年以上携わってきました。その現場経験の中で、市民の手による課題解決の必要性和、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出しました。

人と人の関わり合いや繋がり合いが、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻す鍵ではないかと考えます。

そこで、「NPO法人ゆいツール開発工房^{ラボ}」を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具やしくみ（ゆいツール）を開発することで、社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やし、地域でさまざまな人たちがともに学び合う基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

※ゆいツールは、2010年10月に設立され、2011年9月にNPO法人として登録されました。

2. 団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

- (1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
- (2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
- (3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
- (4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

【過去の主な事業】

- ・インドネシア・ロンボク島における「ごみ銀行」活動発展プログラム（2019年度）
- ・インドネシア・ロンボク島における村ツーリズム開発プログラム（2016年度～2018年度）
- ・インドネシア・ロンボク島における環境保全のためのESDプログラム開発・人材育成事業（2013年度～2015年度）
- ・インドネシア・スマトラ島の森林保全をテーマとしたESDプログラムの開発（2012年度～2015年度）

3. 団体の役員

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、以下の役員によって運営されている。

理事長	山本 かおり	
副理事長	小嵐 妙	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事	松原 裕子	有限会社イリュージョンミル取締役
理事	松原 雅裕	デジタルウムプロジェクト！主宰
理事	森 高一	森企画
監事	小山 庄三	

4. 会計報告（2021年5月現在案）

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房 貸借対照表（2020年3月31日現在）

（単位：円）

（資産の部）		（負債の部）	
預金（1）	377,152	預かり金（会費関係）	12,000
預金（2）	100,020		
		（正味財産の部）	
		一般正味財産	465,172
資産合計	477,172	負債・正味財産合計	477,172

2020年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書
2020年4月1日から2021年3月31日まで

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房
(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 会費・入金収入			
会費・入金収入			
会費収入(正会員)	60,000		
会費収入(賛助会員)	30,000	90,000	
2 事業収益			
①ESDに関わるプログラム開発事業	0		
②ESDに関わる人材育成事業	0		
③ESDの社会展開のための事業	30,893	30,893	
3 寄付金収入			
寄付金	7,000	7,000	
4 その他収益			
利息	2		
雑収入	0	2	
経常収益計			127,895
II 経常費用			
①ESDに関わるプログラム開発事業			
(1) 人件費	0		
(2) その他経費	0	0	
②ESDに関わる人材育成事業			
(1) 人件費	23,575		
(2) その他経費	24,729	48,304	
③ESDの社会展開のための事業			
(1) 人件費	30,893		
(2) その他経費	68,311	99,204	
雑費			0
経常費用計			147,508
当期経常利益額			-19,613
当期正味財産増減額			-19,613
前期繰越正味財産額			465,172
次期繰越正味財産額			445,559

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房 貸借対照表(2021年3月31日現在)

(単位:円)

(資産の部)		(負債の部)	
預金(1)	1,817,814	預り金(2021年度助成金)	1,465,000
預金(2)	100,020	未払い金	4,275
		預り金(会費関係)	3,000
		(正味財産の部)	
		一般正味財産	445,559
資産合計	1,917,834	負債・正味財産合計	1,917,834

貸借対照表脚注

- ・預金(1)・預金(2)は預けた銀行別に区分したものである。
- ・預かり金(2021年度助成金)は、2021年度のための活動費である。
- ・預かり金(会費関係)は、賛助会費3,000円(2021年度分)で、前受けしたものである。
- ・未払い金(4,275円)は4月23日に支払済である。

5. 活動報告

（1）明治学院大学での講義（オンデマンドでの視聴形式）（5月）

2016年度から毎年依頼されて実施している講義で、5年目となった今年は、明治学院大学での講義を事前にパワーポイントを録画し、オンデマンドで学生に視聴してもらう形式で、ゆいツールのロンボク島での活動を紹介した。

【依頼元】一般社団法人地球・人間環境フォーラム（天野さん）

【時期】2020年6月

【方法】録画によるオンデマンド形式

【対象】法学部3、4年生75名 「世界の環境を考える」という講義の1コマ

【内容】「インドネシアで活動するNGOの事例

～ロンボク島での活動紹介“ごみ問題”“村ツーリズム開発”“若者育成”～」

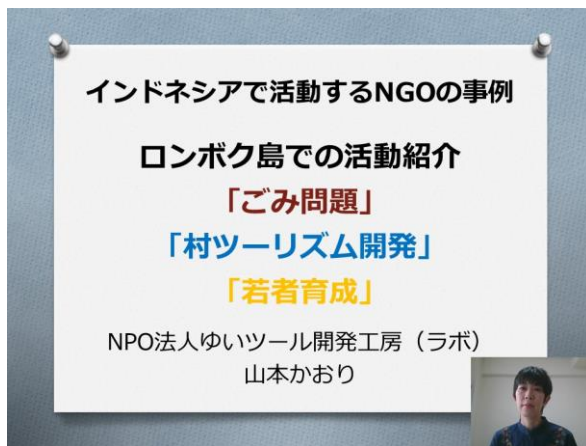
1. はじめに（10分）
私自身のこと
隠れテーマ「積極的に他者と関わること、異質なものと出会うこと」
2. インドネシアのごみ事情（3分）
～クイズタイム～（3分）
3. インドネシア独自の取り組み「ごみ銀行」ってなに？（3分）
4. 村ツーリズム開発（8分）
5. ロンボクの若者たちの育成と学生エコツアーへのすすめ（10分）
6. アンケート「今日、一番興味深かったこと」

【コメント】

今年度は、COVID-19のため大学はオンライン授業に切り替わり、ゆいツールの講義も録画での対応となった。パワーポイントで講義動画が作成できることを初めて知り、活用した。

対面ではなかったものの、視聴した学生たちから「村ツーリズムが印象的だった。自分も国際ボランティアで参加したことがある」「自分もフィリピンのセブ島に留学したことがあり、観光地にもかかわらずごみがあちこちに散乱している状況だった」「私たちが認識している世界の常識が正しいかどうか、自分自身が現地に赴き肌で感じて確かめたい」「自分の視野を広げるためにも色々な国に行きたい。日本にいるときでも、積極的に他者と関わりいろいろな考え方に触れていきたい。」「ゆいツールの活動に参加してみたい」「ゴミ問題をはじめ世界中で起こっている問題は、知識を持った人が指示するだけでなく、自分たちで考えて行動し、異なる地域の人々と交流し知識を高め合うこともとても大切なことだと感じた」「村ツーリズムやエコツアーは良いコミュニケーションの場でもあるのだと分かった」「ゆいツールのように、環境問題のみならず、その周りに発生する現地の人々について寄り添って考えることは環境問題を解決する上で重要なことなのかもしれない」「私は、他者と関わることを億劫だと思ってしまうところがあるので、その意識を変え積極的に行動していくことで、今までと違った経験をすることができればと思う」と言った感想が寄せられた。

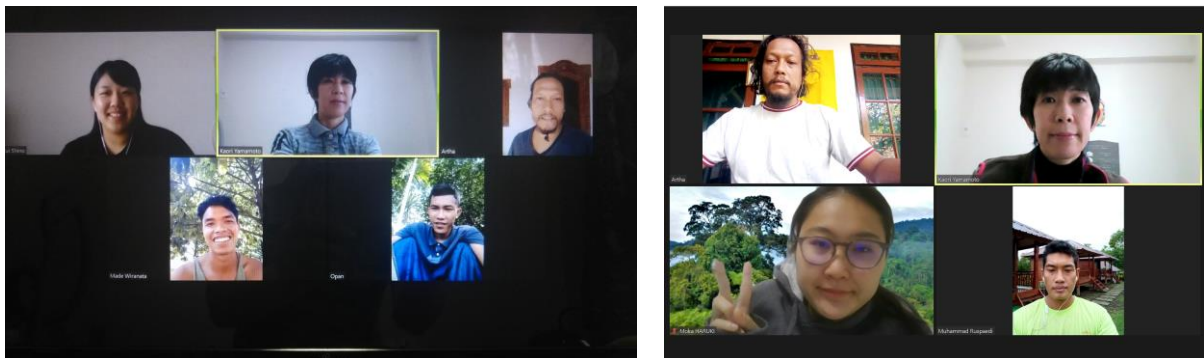
【録画したパワーポイント】



(2) ロンボク島の若者たちの活動

2020年8月より、毎週一回ドゥルカディ・チーム（※1）メンバーとミーティングを行った。活動予定はなかったが、若者たちの士気を維持するため、毎回チームキャプテン（ゆいツール現地スタッフ）と他のメンバー、日本の学生（以前ロンボクを訪れたことがあり、チームメンバーとも面識がある複数人）を時々オブザーバーに呼んで、「動画配信の可能性」「映像製作の成果共有」「マングローブ林の情報収集」などを話したり共有したりした。

※1 ロンボクの若者4人とゆいツール現地スタッフで2019年に結成したチーム。2020年からは若者3人に。



ZOOM ミーティングの様子（2020年9月18日、2020年12月16日）

【マングローブ林調査】

次年度の活動準備のため、ドゥルカディ・チームメンバーふたりが東ロンボクのマングローブ林に調査にでかけた。

●日時：2020年11月24日（火）

●調査地

東ロンボク県サンブリア地区サンブリア村のギリ・ラワン島とギリ・スラット島（両島とも、村からボートで30分くらい移動した先にある）



●ヒアリング内容

村役場のヒルハムさん（Pak Hilham）

- ・ Hilham さんは、バリの旧マングローブインフォメーションセンターで学んだこともある。
- ・ JICA が以前作った木製のトレイルは、住民によって持ち去られたため、コンクリートのトレイルを設置していたが、2018年の地震で壊れてしまった。
- ・ ギリ・ラワンは行政支援もあり、施設が作られ観光客も来ていた。
- ・ POKDARWIS（青年による観光管理グループ）も組織されているが、環境保護の視点はない。
- ・ 住民も、観光客からお金を取ることにしか考えていないため、マングローブの中にごみがたくさんあっても気にしない。（行政によるクリーンアップ活動がないわけではないが、住民が率先して行うことはない）
- ・ ロンボクのマングローブの種類はバリよりも多い。11種類が生息している。
- ・ きれいなサンゴ礁やたくさんの鳥、魚が生息している。

●調査の様子



東ロンボクギリ・ラワン島、ギリ・スラット島のマングローブ林

【子供たちへの環境教育活動】

ドゥルカディ・チームメンバーのひとり、オパンの村で子供たちへの環境教育活動を実施した。

●日時：2021年2月25日（木）午後

●場所/対象

中部ロンボク県北バトゥクリアン地区ランタン村/オパンの家の英語教室の生徒たち 24人

●実施者/協力

ドゥルカディ・チーム（オパン、マデ、ルス）

Lombok Ocean Care (LOC)（サキナ、他3名）

●内容

1. 子供たちと一緒に、村のごみ拾い
2. LOCメンバーによるお話「ごみは分別して捨てよう」
3. 環境の歌、英語の勉強など

●その他

活動状況をまとめたビデオ

<https://youtu.be/Z1mt3qC8ESY>

●活動の様子



清掃活動前（右：LOCのサキナさん）



清掃活動中



ごみを回収するトラックバイク



左からマデ、ルス、サキナ（LOC）、ニサ（LOC）、オバン

（3）生きものクイズの作成

生き物クイズは、東京都内のとある学童保育で、小学校低学年から中学年くらいの子たちに、生き物や生き物が暮らしている環境に興味を持ってもらう目的で作成している。

これまで作ったクイズの一覧

No.	生きもの名	実施時期	クイズ内容
1	ゾウ	2020年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾウの鼻の穴はいくつ？（ひとつ、ふたつ、みつ） ・ゾウのおっぱいはどこ？（前、真ん中、後ろ） ・ゾウの赤ちゃんは産まれたときは何キログラム？
2	イノシシ	2020年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシの赤ちゃんは次のうちどれ？（体の色・模様） ・イノシシの好きなことは次のうちどれ？（かけっこ、どろんこ遊び、かくれんぼ） ・イノシシが時々山から下りてくる理由
3	ニワトリ	2020年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリの卵は何日でひよこになる？ ・コケッコーと大きな声で鳴くのはオス？メス？両方？ ・ニワトリのうんちはどれ？
4	カタツムリ	2020年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・かたつむりのオスとメスの見分け方は？ ・かたつむりが嫌いなものはなに？（野菜、塩、水） ・かたつむりの足の裏、正しいのはどれ？
5	ニホンザル	2020年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の山にいるおさるさんは何種類？ ・ニホンザルのしっぽの長さはどれくらい？ ・ニホンザルの暮らしはどんな感じ？
6	ウシ	2020年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウシのお乳の乳頭はいくつ？ ・ウシがいつも口を動かしているのはなぜ？ ・ウシのひずめはいくつ？
7	セミ	2020年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラゼミの鳴き声はどれ？ ・このセミは何ゼミ？（ミンミンゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ） ・セミはどうして大きな声で鳴けるの？
8	ハチ	2020年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・針を持っているのはオス？メス？両方？ ・これは何バチの巣？ ・ハチの社会は次のうちどれ？
9	カマキリ	2020年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・カマキリの卵は次のうちどれ？ ・カマキリはどうやって大人になるの？ ・カマキリのカマは何のため？
10	クマ	2020年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本にいるクマは何種類？ ・クマの足の裏は次のうちどれ？

			・クマの主な食べ物はなに？
11	海の生きものシリーズ①	2020年11月	・クジラ・イルカ・サメ、違う仲間はどれ？ ・ラッコについて、まちがっているものはどれ？ ・ペンギンについてまちがっているものはどれ？
12	クモ	2020年12月	・クモの足は何本？ ・英語でジャンピングスパイダーと呼ばれるのはどのクモ？ ・クモの糸はどこから出ているの？
13	ヘビ	2021年1月	・ヘビについてまちがっているのはどれ？（耳がない、まぶたがない、骨がない） ・日本の野山にいないヘビはどれ？ ・ヘビの舌はどうなってる？
14	水鳥シリーズ②	2021年2月	・アオサギはどれ？ ・この鳥はなに？ ・日本でハクチョウが見られるのはいつ？
15	海の生きものシリーズ②	2021年4月	・イソギンチャクは次のうちどれ？（動物、植物、寄生虫） ・イソギンチャクのそばにクマノミしかいない理由 ・イソギンチャクと同じ仲間でないものはどれ？

（4）10周年記念ビデオ作成

ゆいツールは2010年10月に設立され、2020年10月に10周年を迎えた。それを記念して、10年間を振り返るビデオ（約7分半）を作成した。（活動写真のスライドビデオ）あわせて、YouTubeにゆいツールチャンネルを開設した。

10周年記念ビデオ：<https://youtu.be/fgt7ctKEAOE>

10周年記念ビデオ（インドネシア語）：<https://youtu.be/zyoYFpfwWHg>



タイトル部分



左日本語、右インドネシア語

（5）インドネシア自然学校のオンライン授業

【依頼元】 Sekolah Alam Indonesia (SAI) (私立インドネシア自然学校:南ジャカルタ)

【時期】 2021年2月25日(木) 15:00~17:15 (日本時間)

【方法】 明治学院大学白金キャンパス

【対象】 インドネシア自然学校の中学生60名、高校生10名、先生方10名

【協力】 Sri Trisna Dewi(Tiwi)、Sri Trisna Wati(Trisna)

【内容】 テーマ：ごみ問題「Our Waste Our Life」

1. はじめに(10分)
自己紹介 山本、ティウィとトゥリスナ
2. 日本・インドネシア・世界のごみ問題に関するクイズ(30分)
(クイズ6問、各クイズの後に短いディスカッションを含む)
3. 日本のごみ問題とインドネシアのごみ問題の違いについて(15分)
4. ゆいツールの活動紹介(ロンボク)(15分)
5. まとめのディスカッション:ごみ問題を解決するために(いくつかの事例)
(20分)
6. 最後のコメント(山本)

【コメント】

- ・1月上旬にゆいツールボランティアを通して、SAIのWawanさんより授業の依頼があった。SAIは、幼稚園から高校までの子供たちを「自然」というキーワードで教育している私立の学校である。SAIでは、「Water Conservation(水の保全)」「Waste Responsibility(廃棄物への責任)」「Green Landscape(緑の景観)」の3つのテーマについて学生が学んでいるということで、ゆいツールは「Our Waste Our Life」として、ごみの問題を考えてもらうこととした。
- ・その後、担当のアイヌン先生とやり取りをしながら、ゆいツールの助っ人としてロンボク島出身で現在はマレーシアの大学院で学ぶ、ティウィとトゥリスナを指名し、3人でSNSを通して諸々連絡をとりながら準備を進めた。(ティウィとトゥリスナは3つ子のうちのふたりで、ゆいツールが村ツーリズムを開発した村の出身である。もう一人のタンティはポーランドに留学中)
- ・授業の前に、2回ほどアイヌン先生とティウィとトゥリスナ、ゆいツール山本の4人でZOOMで打ち合わせをした。学校側では、高校生代表としてワファさんの紹介があった。
- ・SAIでは、新型コロナウイルスのパンデミックが始まってから授業はZOOMで行われている、ということだった。当日は、高校生はカメラオン、中学生はカメラオンオフ自由で参加していた。
- ・授業は内容を山本が準備し、クイズの部分をティウィが担当(トゥリスナはスライド作成)、その後の「日本とインドネシアのごみ問題の違い」と「ロンボクでの活動紹介」を山本から説明した。時間が若干押してしまって、最後のディスカッションは質疑応答のような形になった。
- ・学生からの質問「スピーカーのみなさんへ質問。ごみを出さないようにする教育と出したごみの管理の教育と、どちらがより大切だと考えますか?」「住民へ教育するときの難しさはなんですか?」

「プラスチックのごみによって、生息地が脅かされている動物は日本にいますか?」「なぜ山本さんは環境教育にフォーカスしているのか?一番の目的はなんですか?」「ジャカルタのような都市に住んでいる人には、ごみの管理についてどんなことができますか?」

- ・「自然」に特化したカリキュラムを組んでいる学校だが、高校生が自ら実践している取り組みなどはあまりないようで、反応も普通の高校生と変わらなかった。

【授業案内のバナー】(SAI作成)



【事前打ち合わせの様子】



アイヌン先生 (左上)、ゆいツール山本 (右上)

【授業の様子】



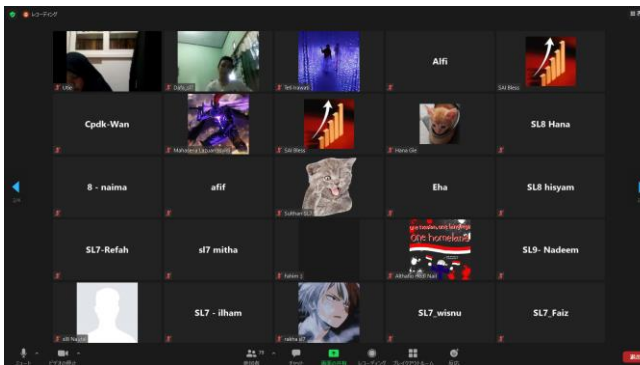
ティウィ、トゥリスナ (上)、ワファ (下)



日本のごみ焼却場の仕組み紹介のビデオ



スピーカーと参加者



参加者

NPO 法人ゆいツール開発^ラ工房
〒155-0032
東京都世田谷区代沢 2-19-12
メールアドレス: yuitool@gmail.com
ホームページ:
<https://yui-tool.jimdofree.com/>
ゆいツールブログ:
<http://blog.goo.ne.jp/yui-tool>